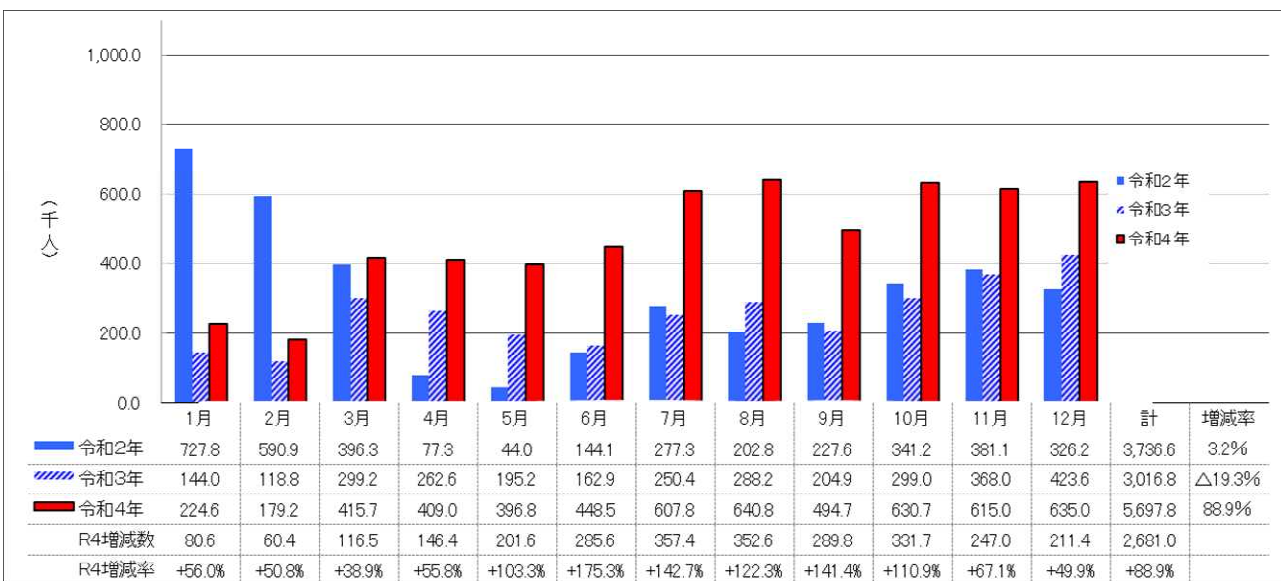


令和4年（暦年）沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和5年1月発表

令和4年（暦年）の観光客数は、569万7,800人
対前年（R3）比 +268万1,000人、+88.9%
～ 増加数は過去最多、増加率は過去2番目 ～
※コロナ前（R1）比 △446万6,100人、△43.9%

■月別入域観光客数の推移（令和2年～令和4年）



■令和4年（暦年）の概況（総括）

令和4年（暦年）の入域観光客数は569万7,800人となり、対前年比で268万1,000人の増、率にして88.9%の増加となった。暦年の観光客数としては、入域観光客数が1,000万人を超えた令和元年以来、3年ぶりに対前年比で増加となり、復帰後最大の増加数、2番目に高い増加率となった。

令和3年と比べて増加した主な要因は次のとおりと考えられる。

- 新型コロナウイルス感染症にかかる行動制限のない状況が4月以降継続していること
- 国内航空路線の運休・減便数が減少、解消されていること。
- 10月から全国旅行支援が実施され、需要喚起がなされたこと
- 海外から日本への水際対策が大幅に緩和され、海外航空路線で運航が順次再開されていること

■令和5年の見通し

国内客については、旺盛な旅行需要の取り込みにより引き続き好調に推移することが期待される。旅行支援など需要喚起策による影響が大きいことから、今後の動向を注視していく必要がある。

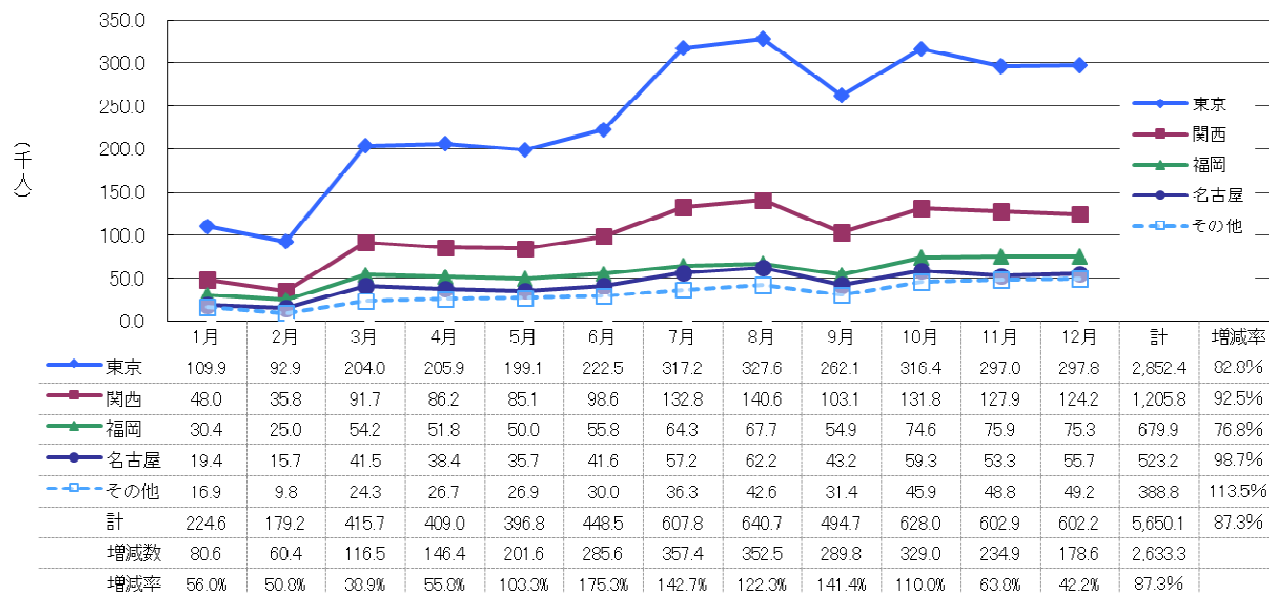
また、外国客については、複数の航空路線で運航が再開されており、更なる旅行需要の取込が期待される。クルーズ船については、国によるガイドラインが策定されたことから順次再開が期待される。

国内客の動向

■入域観光客数（国内）

令和4年（暦年）の国内客は、565万100人となり、対前年比で263万3,300人の増、率にして87.3%の増加となった。

■令和4年（暦年）国内客の状況（方面別の月別推移）



■国内客の概況

令和4年（暦年）においては、令和3年11月以降段階的に経済活動が再開され旅行需要が徐々に回復傾向にあったことや、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により1月から2月にかけて「まん延防止等重点措置」が適用されたものの4月以降行動制限がない状況が続いたこと、また10月から全国旅行支援が実施されたことなどから、通年で対前年同月を上回った。また、10月以降においてコロナ禍前の令和元年同月の水準を上回った。これらの背景には、コロナ禍で抑えられていた旅行マインドが行動制限がない状況となったことにより高揚したこと、また、水際対策の影響により海外から沖縄への方面変更が生じたことなどが影響したものと考えられる。

【方面別の動向】

東京方面 羽田－那覇・宮古・石垣路線での増便などにより、提供座席数、利用率ともに増加したことなどから、前年を上回った。

関西方面 関西－那覇・石垣・宮古、および伊丹－那覇・石垣・宮古路線での増便、加えて神戸－那覇路線での季節運航のなどにより、提供座席数、利用率ともに増加したことなどから、前年を上回った。

福岡方面 福岡－那覇、宮古、石垣での増便などにより、提供座席数、利用率ともに増加したことなどから、前年を上回った。

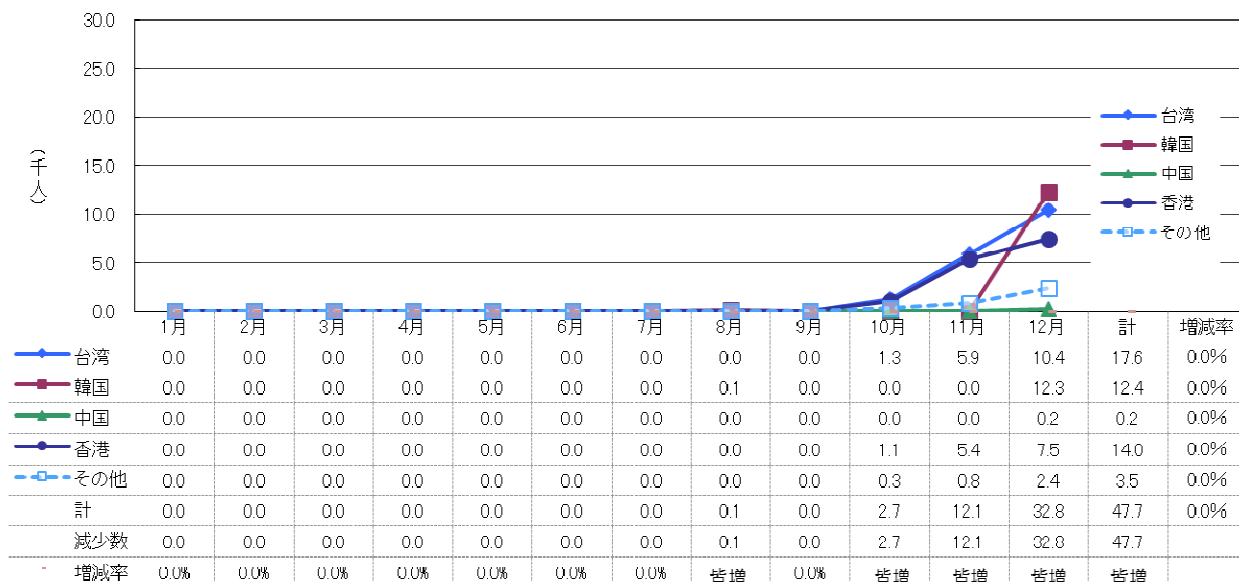
名古屋方面 中部－那覇、宮古、石垣での増便などにより、提供座席数、利用率ともに増加したことなどから、前年を上回った。

外国客の動向

■入域観光客数（外国）

令和4年（暦年）の外国客は47,700人となり、令和3年のゼロから2年ぶりに皆増となった。

■令和4年（暦年）外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国客の概況

令和4年（暦年）は、10月以降水際対策が大幅に緩和されたことを受け、中国を除くアジア近隣諸国（台湾・韓国・香港）からの航空路線で復便が進み運航が順次再開されたことから、2年ぶりに外国客数が計上された。クルーズ船については、運航停止が続いたことから引き続きゼロとなったものの、運航再開に向け11月に国によるガイドラインが策定されたことから、順次再開が期待される。

【市場別の動向】

台湾

日本への入国制限措置により、台湾（台北・台中・高雄）－那覇の航空路線が運休となっていたが、水際対策の大幅な緩和を受け10月より「台北－那覇」路線での運航が再開された。

韓国

日本への入国制限措置により、韓国（ソウル・釜山・大邱）－那覇の航空路線が全て運休となっていたが、8月に「仁川－那覇」路線が運行再開され、一時運休となったものの、水際対策の緩和を受け12月より運行が再開された。

中国本土

中国（上海・北京・天津・広州・南京・重慶・青島）－那覇の7路線が運休が継続していることなどから、入域客数はゼロとなった。中国政府によりゼロコロナ政策の抜本的緩和がなされたものの、感染状況などが不透明であることから今後の状況を注視する必要がある。

香港

日本への入国制限措置により、香港－那覇の航空路線が運休となっていたが、水際対策の大幅な緩和を受け10月より運航が再開された。